

SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS

APRIL
2025

4

昭和医科大学新聞 通巻 第624号
(偶数月発行)



校名変更のご挨拶
定年退職者（教授）の特別寄稿



昭和医科大学
SHOWA Medical University

校名変更のご挨拶

小口 勝司 理事長 久光 正 学長

定年退職者（教授）特別寄稿

本田 一穂 教授 木内 祐二 教授 山村 冬彦 教授
 酒井 広隆 教授 角田 卓也 教授 青木 淳 教授
 出口 義雄 教授 水谷 徹 教授 小谷 透 教授
 林 宗貴 教授 代田 達夫 教授 中村 明弘 教授
 佐藤 均 教授 安次富 隆 教授

ヨーロッパの美しき「詐欺師」が、
日本のハチを誘惑する
したたかなランの花粉媒介戦略
深海生態系の多様化解明へつなぐ研究成果！
長く単一種と考えられていた太平洋ハゲナマコ属の
10種の複合種の再分類と4種の新種候補発見
在宅ケアなどの地域保健医療への貢献を評価
第11回昭和上條医療賞の授賞式を開催

スケート実習 薬学部白衣授与式
リカレントカレッジ特別企画（冬） 各賞受賞者
特別協定校の生徒を対象に本学で体験授業ほか

令和7年度入学試験
一般選抜入試（I期）・
大学入学共通テスト利用入試結果
看護専門学校入学試験結果

学生寄稿
「私たちが富士吉田で学んだこと、感じたこと」

校名変更のご挨拶

2025年4月1日、 昭和医科大学に 校名を 変更しました

昭和医科大学は、
医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部を擁する
医系総合大学であることを校名からも発信し、
大学として更なる発展を目指します。
創立100周年とその先の未来へ向かって、
「常にまごころを持って、
社会に貢献できる優れた医療人」の
育成を続けていきます。

※本学は、2028年11月15日に創立100周年を迎えます。
※英語名称は「SHOWA Medical University」です。

学校法人昭和医科大学
理事長
小口 勝司



昭和医科大学
学長
久光 正



定年退職者（教授） 特別寄稿

医学部解剖学講座
顕微解剖学部門
本田 一穂



解剖学と病理学

9年半前、病理医だった私は昭和大学によって解剖学の世界に導かれました。以来、学生諸君とともに解剖学・発生学を再び学ぶ機会を得て、「教えることは学ぶこと」を実感する毎日でした。この間に新型コロナ・パンデミックがあり、オンライン教育の急速な導入に翻弄されながら、教育の本質である「熱意」を伝える対面の重要性にも気づかされました。病理学が病気の学問であるのに対し、解剖学は人間の

学問と言えましょう。この裾野の広い、どっしりとした学問は、あたかも富士吉田キャンパスから望む富士の姿と重なり、私の人生のページに確かな彩りを添えてくれました。このような機会を与えてくれた昭和大学とこれまで私を支えてくれたすべての方々に厚くお礼申し上げます。退任後は、再び病理学の世界にもどり、病理医として本学の医療に微力ながら貢献する所存です。今後ともよろしくお願いいたします。

至誠一貫の志を体現するチーム医療の教育と研究を求めて

1984年に医学部薬理学で大学院の指導をいただき以来40年間、本学の教育、研究に関わらせていただきました。精神神経薬理の研究に熱中していた私を、1998年に薬学部にお誘いいただき、新設の病態生理学と薬学教育学で、先進的な臨床薬剤師の養成と6年制薬学教育の立ち上げ、多様な臨床薬学研究に参加させていただきました。全学のご協力

のもと、全国モデルとなるチーム医療カリキュラムの構築にも没頭しました。2016年からは学部合同の薬理科学研究センターをスタッフとともに育て、本学の研究センターのモデルを例示できたのではと思います。こうした経験を通して、「至誠一貫」の志を深く学ぶことができました。皆様に深く感謝申し上げますとともに、本学の益々の発展をお祈り申し上げます。

医学部薬理学講座
医科薬理学部門

木内 祐二



医学部内科学講座
消化器内科学部門
（昭和大学病院）
山村 冬彦



内視鏡とともに

昭和大学に入学以来長い年月を大学で過ごさせて頂きました。三田村圭二教授（当時）の第二内科に入学し、医師10年目の節目に開設されて間もない横浜市北部病院消化器センターに出向いたしました。大腸内視鏡の世界的権威 工藤進英教授（当時）に指導して頂き、数多くの学会発表を経験することが出来ました。20年目の節目の年には、当時の田口進病院長から昭和大学病院内視鏡センターへの異動を命

ぜられ、センター長・教授として内視鏡センターの全面改修、内視鏡検査・治療の標準化、最新機器の導入、検査・治療数の増加に邁進してまいりました。日本に誇れる内視鏡センターになったと思います。これも村上雅彦理事、消化器内科 吉田仁教授を始め同僚の先生方、事務など様々なスタッフの支えがあったからこそです。長い間ありがとうございました。昭和医科大学の益々のご発展を祈念いたします。

数多のご指導を賜りながら今日を迎えて

私は1990年に群馬大学医学部を卒業しました。学生時代から造器疾患に興味があった私は、母校の第三内科に入学して研修を始めました。3年目で研究室に所属し分子生物学の基礎を学びましたが、知識や技術をより深めたいと考え大学院に進学したのは、その全ての期間を東京工業大学大学院生命理工学研究科にて石川冬木教授のご指導のもと何物にも代え難い時間を過ごしました。卒業後の2002年に、学生時代からご指導を賜って

いた小峰光博先生が教授の職に就いておられた昭和大学藤が丘病院血液内科に入学させて頂きました。以後は獨協医科大学越谷病院に勤務した期間や聖マリアンナ医科大学で染色体分析を学ばせて頂いた期間も挟みながら、ここ藤が丘病院で臨床の経験を積ませて頂きました。定年退職にあたり、これまでご指導頂いた先生、共に学び働いた同僚や後輩、多くのスタッフの方々に感謝申し上げます。昭和医科大学の益々のご発展をお祈り申し上げます。

医学部内科学講座
血液内科学部門
（藤が丘病院）

酒井 広隆



定年退職者(教授) 特別寄稿

医学部内科学講座
腫瘍内科学部門
(昭和大学病院)
角田 卓也



Everything for patients' happy smile!! 患者さんに納得の医療を

2016年昭和大学臨床薬理研究所臨床腫瘍免疫学講座教授に就任し、2018年に佐々木康綱教授の後任として、昭和大学医学部内科学講座腫瘍内科部門の2代目教授に赴任しました。「Everything for patients' happy smile!!、患者さんに納得の医療を届ける」をビジョンとして邁進してきました。腫瘍内科は「がん薬物療法」を

基軸としたに比較的新しい診療科です。他診療科との密な連携が重要であり、信頼関係を構築することが肝要です。また、後身の育成は教授の一番大切な仕事と考え、直接面談でどんな医師になりたいかを理解するよう努めてきました。これまでご尽力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

医学部外科学講座
心臓血管外科学部門
(昭和大学病院)
青木 淳



心臓血管外科における低侵襲治療を図った12年間

2012年10月に赴任致しました。私は、昭和大学と縁も所縁ありませんでしたが、尾本准教授、丸田講師を中心とするスタッフの協力の元、スムーズに診療・教育・研究を開始する事が出来ました。診療に関しては、開胸による手術成績を維持する事は当然です。しかし、侵襲が大きい心臓血管外科が発展する為には、低侵襲な治療の

導入が必須と考え、赴任3年後の2015年にハイブリッド手術室を設置して頂き、城南地区では最初に経カテーテル大動脈弁移植術を導入する事が出来ました。12年6か月勤務させて頂きましたが、心臓血管外科に未練を残す事無く、満足して定年退職を迎える事が出来ます。皆様のご協力に感謝致します。

医学部外科学講座
消化器一般外科学部門
(江東豊洲病院)
出口 義雄



昭和大学への感謝―定年にあたり

2003年に昭和大学横浜市北部病院に赴任し、早いもので22年が経ちました。当時、建物は新しく、電子カルテ、ペーパーレスの、時代の先端を感じる病院で、センター長である工藤進英先生の「世界最先端の診療を」というかけ声のもと、腹腔鏡手術に積極的に取り組んで参りました。たくさんの方の先生方に多くの指導を受け、11年勤めた

後に、2014年から江東豊洲病院に移動しました。井上晴洋センター長のもと、肝胆膵領域を中心に、後輩の育成に当たって参りました。恵まれた環境、多くの方に指導していただいたことに深く感謝申し上げます。もう少し診療のお手伝いをさせていただけますが今後も一層、昭和医科大学が発展することを祈念致します。

医学部脳神経外科学講座
(昭和大学病院)
水谷 徹



芸術としての脳神経外科マイクロサージェリー

東京大学を1984年に卒業し、2012年に現主任教授を拝命し、2024年末までに科長として主導した手術件数は12,000件を超えました。本邦最多クラスだと思います。解離性脳動脈瘤のバイオニアです。未破裂脳動脈瘤、良性脳腫瘍の極意は同じで、手術技量がものをいう世界です。2012年以来13年間Best Doctor指定継続中で、学会の技術認定委員を長らく務め、安全確実な操作での無血マイクロサージェリーは美しく、脳神経外科医の誇る“芸術”で

あると、発信してきました。手術は、戦略と術者の姿勢に連動した安定した操作こそが核心であり、自分も成長しつつ、全国に通用する数々の術者を育てたと思います。教室員は10数人から約60人となり、半分が昭和大学で半分が他大学出身です。一旦定年ですが、今までかかわっていただいたすべての方への感謝とともに、昭和医科大学の益々の発展を祈念し、同じ目標を持つ仲間と、これからも特任教授として手術にかかわっていきたいと思っています。

医学部集中治療医学講座
(昭和大学病院)
小谷 透



集中治療体制の確立と9年のあゆみ

2016年に麻酔科学講座に赴任した当時、集中治療体制の整備と遠隔集中治療の立ち上げという2つの課題をいただきました。前者は、2018年に集中治療医学講座が新設され、集中治療専門医の専従体制が確立できました。24時間365日継続した監視とより良いタイミングでの治療介入で安定した成績が得られています。遠隔集中治

療の立ち上げは日本初の試みでしたが、今では4病院9ICU108ベッドを支援し、年間7800余名の患者治療に関わっています。9年で2つの課題がなんとか達成でき安堵しています。これまでご指導いただいたすべての皆様、集中治療部門の運営にご協力いただいた先生方に心から感謝し、昭和医科大学の益々の発展を祈念しております。

感謝と未来への歩み―定年退職のごあいさつ

拝啓

皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。この度、無事に定年を迎える運びとなりました。これもひとえに支えてくださった同僚やスタッフの皆様、そして患者様のお力添えのおかげです。心より感謝申し上げます。次年度の昭和医科大学への改称、藤が丘病院

の耐震工事開始に期待を寄せつつ、「断行」「捨行」「離行」を胸に刻み、日々の生活を歩んでいます。変わりゆく鷺沼駅周辺の風景は直接見られぬものの、昭和医科大学の発展を共に見届けられる幸せを感じています。これからもご指導を賜れば幸いです。皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。 敬具

医学部救急・災害医学講座
(藤が丘病院救命救急センター)
林 宗貴



歯学部口腔外科学講座
顎顔面口腔外科学部門
(歯科病院)
代田 達夫



昭和大学歯学部とともに歩んだ45年間

1980年に歯学部4期生として入学しました。卒業後は道健一教授が主宰されていた第一口腔外科学教室に入局し、以来39年間口腔外科医として歩んでまいりました。大学院時代は、当時助教授であった大野康亮先生の指導の下、歯科インプラントに関する基礎研究に従事しました。1991年10月からはHannover医科大学頭

蓋顎顔面外科、そして1992年4月から1年間Hamburg大学医学部病理学研究所に留学させて頂きました。それから、30年間多くの仲間達と協力して、活気ある仕事をさせていただきました。定年退職に際し私を育ててくださった先輩、後輩の皆様、そして多くの素晴らしいスタッフに改めて感謝申し上げます。

日本一の臨床薬剤師育成システムの構築を目指して

薬学教育6年制が始まった2006年4月に薬剤学の教授に着任し、以来19年間にわたり「日本一の臨床薬剤師育成システムの構築」を目指して取り組んで参りました。文部科学省の支援を受けてチーム医療教育プログラムを策定し、全学で協力して実施した日々を鮮明に覚えています。「チーム医療教育」に加えて「1年次全寮教育制度」

や「クリニカルクラークシップ」などの特色ある取り組みを推進することが本学のブランドにつながりました。描いた未来に向けて教育改革はまだ道半ばですが、創造と挑戦を楽しむことができました。創設60年の伝統を基盤に構築した育成システムの発展を祈念すると共に、ご指導ご支援を賜った皆様に心から感謝申し上げます。

薬学部基礎医療薬学講座
薬剤学部門
中村 明弘



薬学部基礎医療薬学講座
薬物動態学部門
佐藤 均



定年退職にあたり

薬学部教授として奉職して以来、25年が経過しました。当初は最年少教授でしたので、時の流れの速さを実感しております。これまで、薬物動態学を基盤とした医療薬学研究に40年関わって参りました。学術論文を約250報（総説論文含み）発表することができ、最近ではカンナビノイドの薬物動態及び適正使用研究を我国で最初に手掛

けることができました。大麻に関するメディア取材を多く受ける事で、昭和大学の学問的レベルの高さを社会に発信できたのではないかと考えております。最後に、昭和大学の全ての教員、職員、学生、大学院生に心から御礼するとともに、学校法人昭和大学に最大の敬意と感謝を表します。長い間、本当に有難うございました。

医療を支えるデザインを目指して

2016年に昭和大学と多摩美術大学は包括連携協定を締結し、多摩美術大学の教務部長（現在は学長補佐・評議員）として両学の協働の活性化に努めてまいりました。医術と美術は表裏一体の関係です。特にデザインは医療を支えていることから、共同授業や両学教員による共同研究を行ってまいりました。現在は、昨年4月に設立され

た昭和大学メディカルデザイン研究所（IMD）の所長を拝命しクロスアポイントメント制度により両学に籍を置き、IMDの所員と共に医療を支えるデザインに取り組んでいます。4月からは特任教授としてIMDの研究活動にさらに力を注ぎ、貴学の発展に寄与したいと存じます。引き続き何卒よろしくお願い申し上げます。

メディカルデザイン研究所
(IMD)
安次富 隆





Press Release

昭和医科大学では最新の研究結果を外部（マスメディア）に発信しています。
ここでは、プレスリリースとして発信した記事を紹介します。

※掲載内容はリリース時の内容となります。

ヨーロッパの美しき「詐欺師」が、日本のハチを誘惑する したたかなランの花粉媒介戦略



昭

和大学（東京都品川区／学長：久光正）の谷亀高広講師（富士山麓自然・生物研究所）、鳥取大学の中秀司准教授（農学部 生命環境農学科）は、ヨーロッパに自生し、ハチを「性擬態」により騙して花粉を媒介させるランが、日本の在来種のハチをも騙し、花粉を送受粉させる現象を初めて確認した。本研究では、ヨーロッパ地中海地域に自生するランが、遙か8,700km先の日本に分布するハチをも騙す能力があることを初めて報告したもので、本研究によりランの多様化や、分布拡大戦略の一端を明らかにした。

ラン科植物の多くは、花粉の媒介を昆虫に依存している。種によって花粉媒介に対する方法が異なり、種によって蜜のような甘い香りや、腐敗したような臭気により昆虫を誘引し、花粉を昆虫に託す。

一方、昆虫のメスが使用する性フェロモンに化学構造が似た物質を放ち、オスを騙す「性擬態」により花粉を運ばせる種も知られている。このような生態を持つランの代表的なものに、ヨーロッパ地中海地域に自生するハナバチラン属（*Ophrys*）の仲間が知られている。

本研究では、このハナバチラン属の1種の*Ophrys fuciflora*が、栽培下において、日本に生息するニッポンヒゲナガハナバチ（*Eucera nipponensis*）（図1a）のオスを誘引し、結実させたことを報告している。

ニッポンヒゲナガハナバチのオスは、花に留まり、花卉に腹部先端をこすり付け、交尾を試みる行動を執拗に繰り返したことから（図1b）、*O. fuciflora*をメス蜂と認識し、強く惹きつけられたと考えられる。また時として複数のオス蜂がひとつの花に群がる様子も観察されている（図1c）。さらに、オス蜂が花に留まっている時間は、最長で90分を超えることもあった。この行

動は、日本に性擬態により花粉を媒介する種が存在せず、ランに騙された経験のないオス蜂が過剰に花に惹きつけられたために起こった現象と考えられる。*Ophrys*属植物は、自生地における環境変化が起こっても、結実率に変化がないことが報告されている（Bateman 2022）。これは、同一種であってもそれぞれの個体が作り出す芳香の成分が微妙に異なるため、騙す対象となっている昆虫の個体数が減少しても、別のターゲットを定め、すぐに新しい関係を構築できるためだと考えられてきた（Schatz et al. 2021）。

本研究において、*O. fuciflora*が自生地から遠く離れた場所でも性擬態を成立させたことから、*Ophrys*属植物は、新しい生育環境においても速やかに昆虫との関係を構築する能力を有し、それがヨーロッパ地域における*Ophrys*属植物の多様化や、分布の拡大に寄与しているとの説を裏付けることになった。

リリース時タイトル／【昭和大学・鳥取大学】ヨーロッパの美しき「詐欺師」が、日本のハチを誘惑する ～したたかなランの花粉媒介戦略～

掲載誌／European Journal of Entomology

論文名／Sexually deceptive pollination of the non-native *Ophrys fuciflora* (Orchidaceae) in Japan by the native bee *Eucera nipponensis* (Hymenoptera: Apidae)

著者／Takahiro YAGAME, Hideshi NAKA

掲載日／2024年10月16日

DOI／10.14411/eje.2024.037

本件に関する問い合わせ先／昭和大学 富士山麓自然・生物研究所 講師 谷亀高広（やがめ たかひろ） TEL：0555-24-1186 E-mail：yagame_showa@cas.showa-u.ac.jp 鳥取大学 農学部 生命環境農学科 准教授 中秀司（なか ひでし） TEL：0857-31-5705 E-mail：chun@tottori-u.ac.jp



図1c：複数のオス蜂が訪花している様子。



図1a：Ophrys fucifloraの花に騙され、頭部に花粉塊を付けられたニッポンヒゲナガハナバチ（Eucera nipponensis）のオス。矢印：O.fucifloraの花粉塊。



図1b：O.fucifloraの花に訪れた、ニッポンヒゲナガハナバチのオス。矢印：O.fucifloraの花粉塊。

深海生態系の多様化解明へつなぐ研究成果！ 長く単一種と考えられていた太平洋ハゲナマコ属の 10種の複合種の再分類と4種の新種候補発見



昭

和大学（東京都品川区／学長：久光正）の蛭田眞平准教授（富士山麓自然・生物研究所）、国立科学博物館の小川晟人特定非常勤研究員（分子生物多様性研究資料センター）、藤田敏彦動物研究部長（動物研究部）らによる共同研究チームが、ロシア シルシヨフ海洋学研究所、ニュージーランド国立水大気研究所、オーストラリア ヴィクトリア博物館研究所、国立研究開発法人海洋研究開発機構の研究者らと共同で、世界各国の6カ所の博物館に収蔵される標本を網羅的に比較することで、太平洋の深海底に広く分布するハゲナマコ属^{（※1）}の種多様性の見直しを行った。太平洋全域に分布するとされてきたムラサキハゲナマコが実際には遺伝的、形態的特徴が異なる10種を包含する複合種^{（※2）}であり、4種の未記載種^{（※3）}を含むことを明らかにした。

■研究の背景

深海底の環境はこれまで生物の種分化を促進する遺伝的交流を制限する障壁や環境勾配が少ない環境と考えられていたため、極めて広い分布域を持つ種が多く存在すると考えられてきた。

棘皮動物の仲間のナマコ類は深海の海底環境に生息する代表的な大型生物で、形態的特徴から同定された種が太平洋全域のような広範な海域から見つかる例が多く知られている。



図1：岩手県沖で採集されたハゲナマコ、本研究の結果、太平洋の深海底に広く生息するハゲナマコ属の中でも本種は北太平洋のみに分布することが明らかになった。

ハゲナマコ属 *Pannychia* は太平洋の漸深海底^{（※4）}では一般的なナマコ類であり、約半世紀に渡って太平洋のハゲナマコ属は全てムラサキハゲナマコ *Pannychia moseleyi* に同定され、ムラサキハゲナマコ1種が太平洋全域に分布すると考えられてきた。一方で、近年、太平洋各地や南インド洋から採取されたハゲナマコ属を扱った研究から形態的差異や遺伝的な隔たりが相次いで報告されたことで、6種に再編する分類が提示されていた。しかし、ハゲナマコ属の真の多様性の解明には、分布域全体を網羅する標本の比較に基づく再検討が必要な状況にあった。

■研究の成果

本研究では、南北太平洋、インド洋、南極海で1986～2019年に採集され、国立科学博物館に加えて日本、オーストラリア、ニュージーランド、ロシア、アメリカの6つの博物館及び研究機関に収蔵されていた178個体のハゲナマコ属の標本を調査した。各国から集めた標本について2つの遺伝子解析手法（COI遺伝子を用いたDNAバーコーディング^{（※5）}とゲノム全体の一塩基多型情報^{（※6）}を比較するMIG-seq法）と形態的特徴による比較を行うことで、ハ

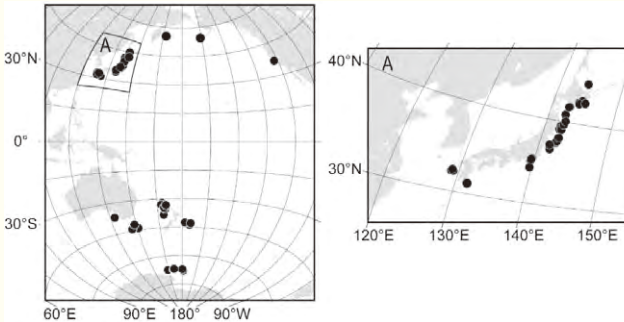


図2：本研究で用いたハゲナマコ属標本の採集地点、世界各国の博物館標本の利用することで、太平洋の深海底に広がるムラサキハゲナマコの生息域を網羅する標本の比較が可能になった。

ゲナマコ属の種多様性を再検討し、その種境界（種の定義）の見直しを行った。

COI遺伝子と全ゲノム一塩基多型情報を用いた系統解析ではそれぞれハゲナマコ属内に10系統群を識別し、2つの遺伝子解析手法の結果と一致した。これら識別された10系統群は互いの遺伝的な差異が十分に大きく、また、その系統群と一致する形態的特徴の違いが確認できたことから、これら10系統群をそれぞれ異なる種として扱うことが妥当と結論づけられた。

10種のうち5種は、形態学的特徴から、ムラサキハゲナマコ *P. moseleyi*、ハゲナマコ *P. virgulifera*、シンカイハゲナマコ *P. henrici*、ナガサキハゲナマコ *P. nagasakimaruae*、ミサキハゲナマコ *P. rinkaimaruae* に、それぞれに同定できた。さらに、もう1種はムラサキハゲナマコの新参異名の一つ *Laetmophasma fecundum* に同定され、ハゲナマコ属の独立した種 *P. fecundum* として再設立された。残りの4系統群は未記載種（新種候補）と考えられる。

今回識別されたハゲナマコ属の10種は、2種がそれぞれ東太平洋と南極海太平洋区に孤立した分布域をもつ一方、北西太平

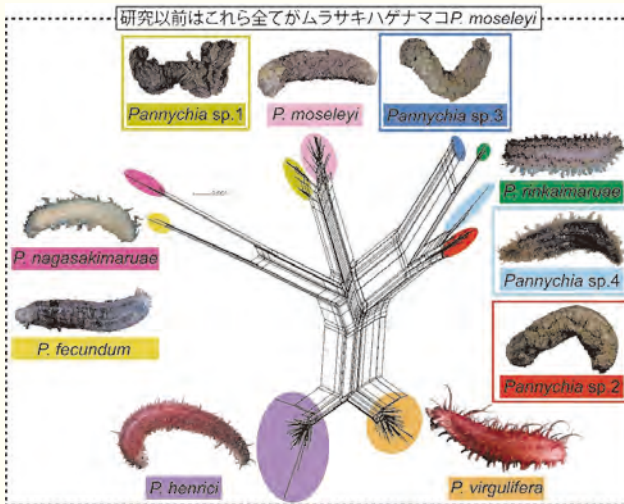


図3：ゲノム全体の一塩基多型情報を用いたハゲナマコ属の系統ネットワーク、これまで太平洋全域に分布する1種と考えられていたムラサキハゲナマコ *P. moseleyi*（点線網み）は、4種の未記載（新種候補、実線網み）を含む10種に分けられる複合種であることを明らかにした。

洋では5種が、南西太平洋では3種がそれぞれ互いに重なり合う分布域をもっていた。そのことから、形態的特徴が似た複数種が互いに重なり合う分布域をもつことで種境界の見落としに繋がりが、種多様性の過小評価と単一種が太平洋全域に分布するという誤った認識を引き起こしていたと考えられた。

■今後の展開

今回発見された未記載種（新種候補）の4種については、ハゲナマコ属の既知の種より詳細な形態比較を進め、新種記載の準備を進めていく予定だ。また、今回使用してきた標本数が少なかった地域（東太平洋、インド洋、南極海など）においても同様の比較を継続し、本属の全球的な種多様性とその分布域の解明を進めていきたいと考えている。

今後、他の深海性種の種多様性の再評価が進むことで、陸上や沿岸の生態系に比べて研究が遅れてきた深海生態系の多様性の理解が進むとともに、地球規模での分布範囲や種分化を経験してきた深海生物の多様化メカニズムの解明につながる事が期待できる。

また、従来型の手法である形態比較やDNAバーコーディングに加えて、全ゲノム一塩基多型情報の比較が深海生物の種多様性の再評価における有効な手法となるとともに、博物館に収蔵される標本と組み合わせて使用することで深海生物などの希少生物の多様性の解明に有効な手法となると考えられている。

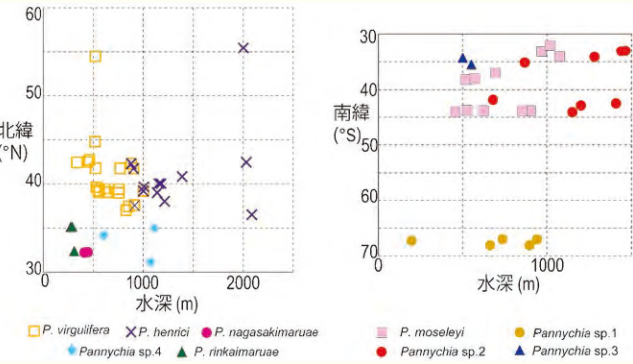


図4：西太平洋と南極海太平洋区におけるハゲナマコ属9種の採集地点の緯度や水深の分布、9種の採集地点を緯度（縦軸）と水深（横軸）で比較すると、北西太平洋に5種、南西太平洋に3種、南極海太平洋区に1種が分布し、9種はそれぞれ異なる分布傾向を示した。北西太平洋と南西太平洋では複数種の分布が一部で重なり合った。

リリース時タイトル／【昭和大学・国立科学博物館】太平洋のハゲナマコから4新種候補を含む10種を発見！～世界各国の博物館標本の遺伝子解析から多様性を明らかに～

用語解説／

- ※1 ハゲナマコ属：太平洋の漸深海底に広く生息する体長5～30cm程のナマコ類の仲間。体の表面が柔らかく傷つきやすく、底曳き網による採集では全身の表皮が剥がれ落ちてしまうことから、ハゲ（剥げ）ナマコと名付けられた背景がある。
- ※2 複合種：形態的特徴やその他の特徴が非常に似ていることから、種の境界が見落とされ、1種として扱われている種群。
- ※3 未記載種：これまでに知られる種とは異なる特徴をもち、今後形態的特徴の詳細な記載が行われることで新種として認められる可能性がある種。
- ※4 漸深海底：水深200～3000mの深海底。深海底生環境の水深による区分のなかでも最も沿岸に近く、浅い水深帯。深海の中でも最も生物多様性が高い水深帯と考えられている。
- ※5 DNAバーコーディング：野外から採取された生物標本の簡便かつ効率的な種同定を行うために、比較的短い特定の領域の塩基配列を取得し比較する遺伝子解析手法。
- ※6 ゲノム全体の一塩基多型情報：一塩基多型とは DNA塩基配列の中で1塩基のみ置き換わった変異であり、一般的に近縁種内の個体間の比較を目的に用いられている。生物1個体の全DNA配列情報であるゲノムの全体から一塩基多型を偏りなく決定・比較する遺伝子解析手法であり、生物個体間のゲノム全体の情報を要約した類縁性や系統関係を効率的に明らかにできる手法。MIG-seq法はそのようなゲノム全体の一塩基多型を決定する手法のひとつである。

発表論文／COI遺伝子と全ゲノム一塩基多型情報をもとにした深海性ナマコ類ハゲナマコ属の系統分類学的再検討 (Molecular phylogenetic reevaluation of deep-sea holothuroid genus *Pannychia* based on COI gene and genome-wide SNPs data)

著者／小川 晟人、蛭田 眞平、Antonina Kremenetskaia、Nicola Davey、Melanie Mackenzie、藤原 義弘、藤田 敏彦

掲載誌／Marine Biology

掲載日／2024年12月24日

DOI／10.1007/s00227-024-04570-8

本研究の一部は、日本学術振興会 科学研究費助成事業 (JP19H00999)、公益財団法人水産無脊椎動物研究所 (No.2017 IKU-4)、文部科学省 東北マリンサイエンス拠点形成事業 海洋生態系の調査研究 (JPMXD1111105260)、ロシア連邦科学高等教育省 (No.FMWE-2024-0022) および国立科学博物館 総合研究 極限環境の科学の支援のもとで実施された。

本件に関する問い合わせ先／昭和大学 富士山麓自然・生物研究所 准教授 蛭田 眞平（ひるた しんべい） E-mail：hiruta@cas.showa-u.ac.jp 独立行政法人国立科学博物館 分子生物多様性研究資料センター 特定非常勤研究員 小川 晟人（おがわ あきと） E-mail：namakogawa@kahaku.go.jp 独立行政法人国立科学博物館 動物研究部 研究部長 藤田 敏彦（ふじた としひこ） E-mail：fujita@kahaku.go.jp

在宅ケアなどの地域保健医療への貢献を評価 第11回昭和上條医療賞の授賞式を開催



公益財団法人昭和大学医学・医療振興財団（東京都品川区・理事長 山元俊憲）はこのほど、2024年度の昭和上條医療賞受賞者を発表し、授賞式が昭和大学上條記念館で執り行われた。

昭和大学医学・医療振興財団は、国民の健康増進と医学・医療の発展に貢献するため設立された公益財団法人である。その事業の一つとして2014年度に創設した顕彰事業「昭和上條医療賞」は、地域保健医療の実践および教育の分野において創造的かつ先駆的諸活動を行い、大きな成果を挙げた個人またはグループを顕彰するものである。

昨今は、助成を条件として特定の分野に限って顕彰する形式の事業が一般的となっており、本事業は、国民の健康増進と医学・医療の発展に貢献する取り組みを広く対象として顕彰しており、同財団の理念を体現した特色といえる。

今年度の受賞者は次のとおり。

■第11回「昭和上條医療賞」受賞者

- 難治性疾患（難病・癌等）の在宅管理の推進活動／藤元 流八郎氏（医療法人社団 鳳優会 理事長：東京都品川区）
- 東京都多摩地域における医療的ケア児への在宅歯科医療の普及／多摩小児在宅歯科医療連携ネット代表 田村 文誉氏（日本歯科大学 教授：東京都小金井市）
- ソーシャルキャピタルを活用したコミュニティケア／地域つながり推進委員会 代表 宮地 紘樹氏（掛川東病院 病院長：静岡県掛川市）



（左から）理事長、藤元 流八郎氏（受賞者）、黒田岳志氏（推薦者代理）



（左から）理事長、田村文誉氏（受賞者）、浅川剛吉氏（推薦者）



（左から）理事長、宮地紘樹氏（受賞者）、若杉浩一氏（推薦者代理）

リリース時タイトル／昭和大学医学・医療振興財団が第11回昭和上條医療賞の授賞式を開催

なんでもご相談下さい。

医学堂書店

有限会社 医学堂書店

〒142-0064 東京都品川区旗の台1-11-9
TEL 03-3783-9774 FAX 03-3783-3156
Email igakudo@peridot.bforth.com

お気軽にご相談を!!

- ◆ 万が一のための保障準備
- ◆ 住宅ローン・資産運用 など

お問い合わせ・ご予約は
三井住友銀行 旗ノ台支店
東京都品川区旗の台1-4-15
TEL. 03-3785-3012

SMBC

News & Topics

2025.1.11～13

本学アイスホッケークラブ選手を講師に 富士吉田でスケート実習を開講

1月11日～13日の3日間、富士急コニファースケートリンク（山梨県富士吉田市）にて、富士吉田教育部のカリキュラム「健康とスポーツの科学」の集中講義を開講し、スケート実習を選択した学生28名が受講した。

本学の職員で昭和大学女子アイスホッケークラブ「BLUE WINDS」の選手らを講師とし、スケート靴の履き方から始まり、基本技能（自然滑走、ひょうたん滑走、イの字ストップ、フォアストローク）の習得を目指した。習熟度別にグループ分けを行い、動画でフォームを撮影しながら進めた。実技実習後の講義では、撮影した動画を使用しながらグループごとにコーチからフィードバックを受け、さらなる技能習得に向けてアドバイスをもらうなど、充実した講義となった。



富士吉田教育部

1 集合写真 2 3 4 スケート実習の様子

2025.1.15

薬学部白衣授与式を挙行 2年間の臨床実習へ臨む168名

1月15日、令和7年薬学部白衣授与式を上條記念館で執り行い、4年生168名一人ひとりに白衣が授与された。

同式は、今後約2年間の臨床実習に臨む4年生を対象に、医療人を目指す者としての自覚を促し心構えを新たにすることを目的に毎年実施している。

中村明弘薬学部長は告辞で、「ここまで皆さんは、知識、技術、医療人としての態度を身につけることを目標に約4年間を過ごしてまいりました。ただ覚えるだけでは、これは本当の知識とは呼べません。医療の現場で患者さんのために使わなければ、死んだ知識となってしまいます。自身の強みと課題を実感するための参加型クリニカルクラークシップであり、患者担当制です。是非皆さんがベストを尽くし、そして成長が著しいような臨床実習になることを願っております」と述べた。

その後、学生たちは「Showa Medical University Student



1 白衣授与 2 昭和大学宣言を唱和する学生たちの姿 3 代表者による昭和大学宣言

Pharmacist」と刺繍された真新しい白衣に袖を通し、これから始まる臨床実習への決意を新たにした。

これから卒業まで、学生は本学附属病院や薬局等における臨床実習で研鑽を重ねていく。

薬学部 式典・行事

2024.12.15

町会の防災餅つき大会に参加 地域交流でつなぐ絆を大切に

12月15日、旗の台一丁目町会の「防災餅つき大会」が開催され、本学の学生と職員が参加した。当日は餅つきをはじめ、つきたての餅の調理や、販売の手伝いをして、町会の皆さんとの交流を深めた。



1 餅をつく学生たち 2 餅を販売する学生たち

地域・一般

2025.1.18

認定看護管理者教育課程 サードレベル修了式

1月18日、2024年度認定看護管理者教育課程サードレベルの修了式を開催した。今年度、全課程を修了したのは、全国の病院やクリニックから認定看護管理者を目指して集まった34名。今後は認定看護管理者として、安心・安全な看護を未来につなげていくため、それぞれが各施設で活躍することを胸に誓い、新たな一步を踏み出した。

これまでに、本学では279名の認定看護管理者を輩出している。



1 記念写真 2 挨拶：増田千鶴子看護キャリア開発・研究センター長 3 修了証授与

看護キャリア開発・研究センター 式典・行事

2025.1.18

コミュニケーションに対する「学び」を発信 冬のリカレントカレッジ特別企画

1月18日、昭和大学リカレントカレッジ特別企画（冬）講演会を昭和大学上條記念館にて開催した。今回は、城祐一郎教授（医学部法医学講座）とフリーアナウンサーの高嶋秀武氏（昭和大学客員教授）を招き、今の時代だからこそ必要なコミュニケーション力を身に付けるためのヒントなどをこれまでの経験を基にご講演いただいた。

第一部では、35年にわたって検事として犯罪捜査に従事された城祐一郎教授が、自身の検事時代のエピソードを交えながら、人の心を開くためのコミュニケーション術や検事として重視していたことについて、お話された。第二部では、高嶋秀武氏が「アナウンサー生活60年 今思うこと ～世代間ギャップに悩まない 高嶋



1 第一部：城教授による講演 2 第二部：高嶋氏による講演

流会話術～」というテーマで、時代の変化に応じたコミュニケーションの重要性について講演された。

今後も、昭和医科大学リカレントカレッジは、社会人の「知の探究」の一助となる文化の発信拠点として、様々な講座の開講やイベントの開催に取り組んでいく。

2024.12.5

田園調布学園と包括連携協定締結

12月5日、田園調布学園中等部・高等部と包括連携協定を締結した。本学から中村明弘薬学部長ほか大学関係者にて田園調布学園中等部・高等部を訪問し、田園調布学園中等部・高等部清水豊校長が協定書へ署名を行い、包括連携協定が締結された。

本協定では、両校が教育・地域貢献等の各面にわたって広く協力し、交流を深めることにより、教育内容の充実と学生及び生徒の資質向上を図ることを目的としており、今回の包括連携協定を契機に人事交流をはじめとする高大連携に向けてより密接な連携を図っていく。



記念撮影

連携・貢献

品川女子学院と包括連携協定締結

12月11日、品川女子学院と包括連携協定を締結した。本学から中村明弘薬学部長ほか大学関係者にて品川女子学院を訪問し、品川女子学院高等部権藤英信校長、中等部神谷岳校長が協定書へ署名を行い、包括連携協定が締結された。

本協定では、両校が教育・地域貢献等の各面にわたって広く協力し、交流を深めることにより、教育内容の充実と学生及び生徒の資質向上を図ることを目的としており、今回の包括連携協定を契機に人事交流をはじめとする高大連携に向けてより密接な連携を図っていく。



記念撮影

文教大学附属中学校・高等学校と包括連携協定締結

12月13日、文教大学附属中学校・高等学校と包括連携協定を締結した。本学から鈴木久義保健医療学部長ほか大学関係者にて文教大学附属中学校・高等学校を訪問し、文教大学附属中学校神戸航校長、高等学校能村英達校長が協定書へ署名を行い、包括連携協定が締結された。

本協定では、両校が教育・地域貢献等の各面にわたって広く協力し、交流を深めることにより、教育内容の充実と学生及び生徒の資質向上を図ることを目的としており、今回の包括連携協定を契機に人事交流をはじめとする高大連携に向けてより密接な連携を図っていく。



記念撮影

聖園女学院と包括連携協定締結

1月27日、聖園女学院と包括連携協定を締結した。本学から中村明弘薬学部長、肥田典子薬学部教授にて聖園女学院を訪問し、聖園女学院中学校・高等学校ミカエル・カルマノ学校長が協定書へ署名を行い、包括連携協定が締結された。

本協定では、両校が教育・地域貢献等の各面にわたって広く協力し、交流を深めることにより、教育内容の充実と学生及び生徒の資質向上を図ることを目的としており、今回の包括連携協定を契機に人事交流をはじめとする高大連携に向けてより密接な連携を図っていく。



記念撮影

医療者教育用シュミレータ機器を用いた 中高生対象の体験授業を実施

12月16日、横浜キャンパスにおいて、本学の特別協定校である森村学園中等部・高等部の生徒を対象にシミュレーション体験授業を実施した。授業には、医療系分野に興味のある中等部の1年生3名と2年生1名、高等部の1年生1名と2年生5名の計14名が参加した。

授業では、バーチャル解剖台「アナトマージテーブル」を用いた体の構造の観察、心肺蘇生用シュミレータ「レサシアン」を用いた心肺蘇生の体験、高機能患者シュミレータ「SimMan 3G」を用いた脈拍や呼吸音の確認、仮想患者シュミレータ「Body Interact」を用いた問診・検査・診察など、実際に大学で行われているシミュレーション教育を実施。生徒たちは、ICT技術を活用した様々なシミュレーション体験授業に大きな関心を示し、授業の終わりには、授業補助を担当した本学学生と意見を交わすなど、積極的な姿が見られた。

今後も両校は、様々な相互交流を通じて高大連携を一層強化していく。

授業担当者

保健医療学教育学 田代尚範 准教授、古川輝 講師（当時）

リハビリテーション学科理学療法学専攻 大塚裕之 講師

リハビリテーション学科作業療法学専攻 青木啓一郎 講師

授業補助

看護学科4年 岸本恵里さん 理学療法学科4年 宇高萌さん



1 アナトマージテーブル 2 高性能シュミレータを用いた心肺蘇生法 3 人工呼吸器が装着された高機能シュミレータ 4 仮想患者シュミレータ「Body Interact」

電子顕微鏡で μm の世界を観察 特別協定校の生徒を対象に本学で体験授業

12月19日、本学の特別協定校である昭和女子大学附属昭和高等学校の生徒を対象に、高木孝士准教授（当時）（電子顕微鏡室）および梅澤はるか助教（歯学部口腔微生物学講座）が旗の台キャンパスで電子顕微鏡体験授業を実施した。授業には、医療系分野に興味のある高校2年生5名が参加した。

はじめに高木准教授より電子顕微鏡の概要について、顕微鏡の構造や種類、電子顕微鏡によって観察できる世界はどのようなものか等を説明があった。その後、実際に生徒の頭髪を採取して標本作製し、電子顕微鏡で観察を行った。生徒たちは1mmの1/1000の大きさである μm （マイクロメートル）の世界に興味を



1 授業の様子 2 標本作製している様子

示し、積極的に授業に参加していた。

今後も両校は、様々な相互交流を通じて高大連携を一層強化していく。

変形性顎関節症誘発メカニズムの基礎研究で 日本矯正歯科学会学術大会 学術大会優秀発表賞を受賞

歯学研究科4年の澁坂和大人（歯科矯正学専攻）が、第83回日本矯正歯科学会学術大会（10月29日～31日：パシフィコ横浜）において、演題名「空間トランスクリプトーム解析とシングルセル解析による変形性顎関節症の分子病態メカニズムの解明」の発表を行い、学術大会優秀発表賞を受賞した。日本矯正歯科学会は、歯科矯正学・矯正歯科臨床の進歩・発展を目的として、1926年に設立された日本を代表する歯科矯正学を専門とする学術団体であり、今年度の学術大会は「矯正歯科治療における形態と機能の調和を目指して」というテーマで開催され、5,000人を超える参加者が集まった。

【澁坂和大人のコメント】

このたびは日本矯正歯科学会学術大会において学術大会優秀発表賞を賜り、大変光栄に存じます。

本研究は、過度の力学的ストレスや炎症性ストレス、関節円板の位置異常などによって誘発される変形性顎関節症（TMJ-OA）の病態メカニズムの解明を目的にマウスモデルを用いて様々な解析を行った基礎研究になります。

今回の発表に際し、ご指導いただきました矢野文子講師（歯学部口腔生化学講座）、中納治久教授（歯学部歯科矯正学講座）、



（左から）中納治久教授、澁坂和大人

吉田寛講師（同）、岡田寛之先生（東京大学大学院医学研究科疾患生命工学センター臨床医工学部門）、寺島明日香先生（東京大学医学部附属病院 整形外科骨・軟骨再生医療講座）、金英寛先生（京都大学医生物学研究所生命システム研究部門）、鈴木穰先生（東京大学大学院新領域創成科学研究科 メディカル情報生命専攻）をはじめ、関係者の皆さまに心より御礼申し上げます。

関連リンク／日本矯正歯科学会 <https://www.jos.gr.jp/>、第83回日本矯正歯科学会学術大会 <https://square.umin.ac.jp/jos-am/index.html>

第274回日本循環器学会 関東甲信越地方会最優秀賞受賞

医学部4年の山近萌恵乃さんが、第274回日本循環器学会関東甲信越地方会（12月14日：ステーションコンファレンス東京）で、Student Awardのファイナリストに選出され、最優秀賞を受賞した。山近さんは「冠攣縮の関与が推察される突然死例における心外膜冠動脈と心筋間小動脈の病理形態異常」の演題名で発表し、冠攣縮の関連が示唆される病理解剖症例について、近年注目されている心筋間微小血管構造において、それに関連する形態異常を検討して考察した内容が高く評価され、同賞に選定された。

【山近萌恵乃さんのコメント】

この度は、このような素晴らしい賞を頂戴し大変嬉しく存じます。本演題では、冠攣縮の関与が疑われる症例において、心筋間の小動脈を含めた冠動脈の病理形態異常を検討しました。冠攣縮は機能的な病態であり、その病理形態は未だ解明されていない点が多くあることを学びました。今後もさらなる検討を重ねていきたいと考えております。

今回、このような発表の場をいただき大変貴重な経験となりました。



1 表彰式の様子 松山高明教授 2 （左から）山近萌恵乃さん、松山高明教授

した。初めての経験で分からないことばかりでしたが、一からご指導いただいた医学部法医学講座の松山高明教授をはじめ、先生方に心より御礼申し上げます。今後も多くのことに興味を持ち、学び続けていきたいと考えております。今後ともご指導・鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

関連リンク／第274回関東甲信越地方会のご案内 https://supportoffice.jp/jcs-kanto/chihoukai/kanto_274.html

新規ホームホワイトニング材の安全性と有効性を評価 日本歯科審美学会学術大会 優秀奨励論文賞を受賞

新妻由衣子講師（歯学部歯科保存学講座保存修復学部門）らが、日本歯科審美学会第35回学術大会（12月7日～8日：あわぎんホール）において、論文名「プレフィルドホームホワイトニング材に関する臨床研究 20症例18ヵ月フォローアップ」で優秀奨励論文賞を受賞した。

【新妻由衣子講師のコメント】

この度はこのような賞を賜り、大変光栄に存じます。

本研究は、歯学部歯科保存学講座保存修復学部門にて治験を実施し、承認・発売に至った新規ホームホワイトニング材について有効性と安全性を評価した臨床試験の報告になります。承認後発売され、今では歯科病院保存修復科ホワイトニング外来にて多くの患者さんが使用しています。歯のホワイトニングは、患者さんの口元を美しく、笑顔をより魅力的にするのみならず、口腔衛生管理のモチベーションの向上などにもつながると報告されています。今後もホワイトニングの基礎研究、臨床研究を続け、社会への貢献に尽力していきたいと考えております。

本研究においてご指導いただきました小林幹宏准教授（歯学部歯科保存学講座保存修復学部門）、東光照夫客員講師（同）、関係者の方々に心より御礼申し上げます。



（左から）新妻由衣子講師（歯学部歯科保存学講座保存修復学部門）、小林幹宏准教授（同）

論文名／プレフィルドホームホワイトニング材に関する臨床研究 20症例18ヵ月フォローアップ

掲載誌／歯科審美36巻（2023-2024）1号

著者／新妻由衣子、小林幹宏、菅井琳太郎、寺島実華子、長谷川正剛、山口麻衣、真鍋厚史

DOI／10.60256/sikasinbi.36.1_1

URL／https://www.jstage.jst.go.jp/article/sikasinbi/36/1/36_1/_article/-char/ja/

関連リンク／日本歯科審美学会 <https://www.jdshinbi.net/>、日本歯科審美学会第35回学術大会 <https://jaed.site/35/>

日本歯科審美学会学術大会優秀発表賞を受賞 審美治療において色調に影響を及ぼす環境と材料の研究

菅井琳太郎助教（歯学部歯科保存学講座保存修復学部門）が、日本歯科審美学会第35回学術大会（12月7日～8日：あわぎんホール）において、演題名「ユニバーサルシェードコンポジットレジンで装着されたポーセレンラミネートベニア修復の色調評価」で優秀発表賞（デンツプライシロナ賞）を受賞した。

【菅井琳太郎助教のコメント】

この度は日本歯科審美学会第35回学術大会にて優秀発表賞をいただき、大変光栄に存じます。

本研究は、前歯部の審美性改善に用いられるラミネートベニア修復において、装着する歯の状態や装着に用いるセメントの特性が最終的な色調に、どのような影響を及ぼすかについて探求した内容です。ラミネートベニア修復は非常に繊細な色調再現性が求められる修復技法であり、本研究を通じて新たな知見を得ること

ができました。今回の結果を日々の臨床に生かしつつ、新しい研究分野に貢献できるように今後とも尽力したいと思います。

本研究の遂行においてご指導いただきました小林幹宏准教授（歯学部歯科保存学講座保存修復学部門）また、関係者の方々に心より御礼申し上げます。

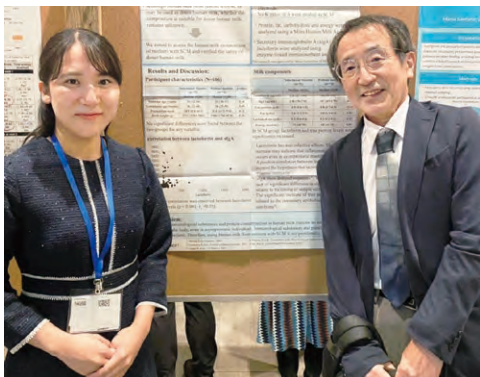


（左から）小林幹宏准教授（歯学部歯科保存学講座保存修復学部門）、菅井琳太郎助教（同）

関連リンク／日本歯科審美学会 <https://www.jdshinbi.net/>、日本歯科審美学会第35回学術大会 <https://jaed.site/35/>

Journal of Human Lactation誌に 学生の原著論文掲載

医学部6年の伊藤瑞穂さん、水野克己教授（医学部小児科学講座）らの研究グループが投稿した原著論文、「Immunological factors and macronutrient content in human milk from women with subclinical mastitis」が*Journal of Human Lactation*に掲載された。本論文は不顕性乳腺炎への罹患が母乳成分に与える影響を分析し、疾患への理解を深めるとともに、罹患時における授乳の安全性を評価したものである。



(左から) 伊藤瑞穂さん、水野克己教授

【伊藤瑞穂さんのコメント】

この度、Journal of Human Lactation誌に原著論文が掲載される運びとなり、大変嬉しく思います。

本研究では、不顕性乳腺炎への罹患が母乳成分に与える影響を分析し、疾患への理解を深めるとともに、罹患時における授乳の安全性を評価しました。

本論文の作成にあたり、多大なご指導を賜りました医学部小児科学講座 水野教授、研究室の皆さまに深く感謝申し上げます。

論文名／Immunological factors and macronutrient content in human milk from women with subclinical mastitis

掲載誌／*Journal of Human Lactation*

著者／Ito, Mizuho; Tanaka, Miori; Date, Midori; Miura, Kumiko; Mizuno, Katsumi

DOI／10.1177/08903344241297585

URL／<https://journals.sagepub.com/doi/10.1177/08903344241297585>

2025.2.6～9

オリンピック女子アイスホッケー最終予選で快勝！ 本学職員が、冬季オリンピックに出場決定！

2月6日～9日、オリンピック冬季競技大会（2026／ミラノ・コルティナ）女子アイスホッケー最終予選が北海道苫小牧市で開催され、本学職員の小山玲弥選手が全試合に出場した。3戦全勝で日本が快勝し、2026冬季オリンピック出場を決めた。

女子日本代表監督 飯塚祐司（人事部） 日本代表選手 小山玲弥（総務課）

最終予選の試合結果		
2025年2月6日(木)	日本 VS フランス	7-1で日本勝利
2月8日(土)	日本 VS ポーランド	6-0で日本勝利
2月9日(日)	日本 VS 中国	4-1で日本勝利

(左から) 小口勝司理事長、飯塚祐司監督、小山玲弥選手、久光正学長



2025.2.21～23

昭和大学横浜自然教育園にて観梅会・梅まつりを開催 澄んだ冬空に咲き誇る、可憐な梅を鑑賞

2月21日、昭和大学横浜自然教育園にて学内関係者による観梅会を開催した。横浜自然教育園には、200種類、270本のウメが植えられている。園内は、つばみがほころびはじめ、薄桃、黄、白色の花を咲かせた園路を小口勝司理事長や久光正学長と学内関係者が散策しウメを鑑賞した。

2月22日・23日は梅まつりを開催した。22日は大坪孝之会長（日本梅の会）よりウメの講習会が行われ、参加者に対して、梅の種類や特徴を解説しながら、園内を散策し、参加者は熱心に耳を傾けていた。23日は茶道部による野点茶会が行われ、学生によるお点前が披露され、お茶と和菓子がふるまわれた。両日ともに天候に恵まれ、学内・学外問わず多くの方に来場していただき、盛況のうちに終了した。



1 見ごろを迎えたウメの様子 2 梅の講習会の様子 3 観梅会の様子 4 野点茶会の様子

Database

令和7年度入学試験

一般選抜入試（I期）、 大学入学共通テスト利用入試結果



令和7年度一般選抜入試（I期）が、2月6日（歯学部・薬学部・保健医療学部）、7日（医学部一次）の両日、五反田TOCビルで行われた。医学部二次試験は、2月15日、16日の両日、旗の台キャンパスで行われた。また、大学入学共通テスト利用入試が、2月6日（面接試験）五反田TOCビルで行われた。詳細は表のとおり。

一般選抜入試（I期） 令和7年度結果

		令和7年2月17日時点		
学部・学科・専攻		試験日	志願者数	合格者数
医学部 地域枠 選抜入試	医学部		2,723	221
	新潟県		155	7
	静岡県	一次 令和7年2月7日(金)	198	8
	茨城県	二次 令和7年2月15日(土)または16日(日)	40	3
	山梨県		12	2
	薬学部（医学部併願）		100	12
保健医療学部	歯学部		385	85
	薬学部		355	188
	看護学科		240	72
	リハビリテーション学科 理学療法学専攻	令和7年2月6日(木)	64	32
	リハビリテーション学科 作業療法学専攻		6	6
	リハビリテーション学科 作業療法学専攻 （第二希望併願）		5	5

大学入学共通テスト利用入試 令和7年度結果

		令和7年2月12日時点		
学部・学科・専攻		試験日	志願者数	合格者数
保健医療学部	歯学部		158	28
	薬学部		198	58
	看護学科		199	45
	リハビリテーション学科 理学療法学専攻	大学入学共通テスト 令和7年1月18日(土)・19日(日) 面接試験 令和7年2月6日(木)	49	19
	リハビリテーション学科 作業療法学専攻		15	10

令和7年度医学部附属 看護専門学校入学試験結果

医学部附属看護専門学校令和7年度一般選抜入試I期が行われ、合格者が決定した。詳細は表のとおり。

一般選抜入試I期（試験日：令和7年1月13日）

年度	2025年度	2024年度
募集人員	50	65
志願者数	男	6
	女	96
	計	102
合格者数	男	5
	女	68
	計	73

私たちが富士吉田で学んだこと、感じたこと

1月27日、富士吉田スクエアガーデンにて退寮式を執り行い、医学部・歯学部・薬学部・保健医療学部にて在籍する1学年599名が10ヶ月におよぶ寮生活に別れを告げた。

倉田知光教育部長の挨拶に続き、中央委員長の大野淳成さん（医学部）から寮生活を支えてくれた職員・寮監、そしてともに過ごした学生たちに感謝が述べられた。その後、スチューデントインストラクターや学外活動で優秀な成績を収めた学生5名に倉田知光教育部長から表彰状が授与された。

寮生活を支えてくれた赤松寮・白樺寮・すみれ寮・百合寮の寮監には、それぞれの寮長・副寮長から感謝の言葉と記念品が贈られた。最後に、職員が制作した寮生活の思い出を振り返る記念動画が上映され、会場は感動に包まれた。



医学部
水野 里々花

生涯の燈へ

ウィンターパーティーにおいて、私は副実行委員長と会計を務めさせていただきました。

当日までの多くの困難をどうにか乗り越え、そしてあれもこれもやりたいという私たちの希望を詰め込んで、ウィンターパーティーは当日を迎えました。

夜眠れないような困難な出来事も、今ではいい思い出です。これらへの挑戦を通して、私は共に立ち向かってくれた仲間と、私たちを支えてくださった多くの方々のありがたみを知ることが出来ました。

私にとって、ウィンターパーティーは、大きな成長の機会であったと同時に、生涯忘れることのない思い出の燈になりました。私を支えてくれた、そして引っ張ってくれた仲間から心からの感謝を伝えたいです。

ボランティア活動を通じた地域交流

昭和大学では様々な地域交流の場があります。富士吉田キャンパスの近くにある青少年センター「赤い屋根」でのボランティアは、毎月地域の子ども達と体育館での運動を通じて交流します。次第に打ち解けてくれる姿を見て、自然と笑顔になり、楽しい時間を過ごしました。他にも、富士山周辺の清掃ボランティアでは、ゴミ拾いをして周囲が綺麗になることに嬉しさを感じると共に、同級生や地域の方々との交流を深めることが出来ました。沢山のボランティア活動を通じて、他者に奉仕する経験を積むことができ、「相手に最大限の配慮をすること」や「笑顔で接すること」を学び、自身も成長することができたと感じます。貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。



歯学部
岩本 将大



薬学部
森田 紫由

医療人としての第一歩

富士吉田での共同生活は、医療人を志す私たちにとって欠かせない1年でした。毎週月曜日と金曜日は学部連携の授業があり、他学部との議論を通して新たな学びが非常に多くありました。また、実習ごとに毎回グループが変わるため、他者とのコミュニケーションが自然に取れるようになりました。専門的な知識を学ぶことに加え、学部混合の共同生活だからこそ学べるものが非常に多くありました。

さらに、同室で勉強に励む友達の姿を見ると、自然と「自分も頑張ろう」という気持ちになりました。富士吉田での生活は、私を人として大きく成長させてくれた忘れられない1年です。1年間支えてくださった先生方、友達、寮監さん、そして家族、すべての方々に心より感謝申し上げます。



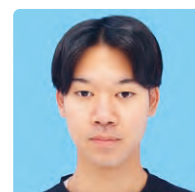
ボランティア活動で経験したこと

私は、地域の子ども食堂や障がい者施設でボランティア活動を行い、子どもたちや障がい者の方々の笑顔に少しでも貢献できることに喜びを感じました。地元の子ども食堂でも活動していますが、富士吉田の子ども食堂は異なる点がありました。それは、子どもたちが食事後に施設内の体育館にきて一緒に触れ合えたり、外国人や障がい者の方と関われる点です。初めは緊張してしまってもう関わることができませんでしたが、次第にコミュニケーションをとれるようになりました。また、地域の方と協力しながら活動することで、人と人との繋がり的重要性も実感しました。

このような富士吉田でのボランティア活動は、私にとって貴重な経験になりました。ここで得た経験を地元の活動にも活かしていきたいと思っています。



保健医療学部
看護学科
藤井 尚子



保健医療学部
リハビリテーション学科
理学療法専攻
森 恒星

寮生活で深まる友情

約10カ月間の寮生活はとても充実した時間でした。入寮する前、寮生活に対していろいろと不安な気持ちで頭がいっぱいでしたが、部屋のメンバーや同じフロアの友人とたくさん話したり、ゲームやパーティーをするうちに、気づいたら不安な気持ちが消えていました。ここで感じた寮生活のいいことは、友達との絆が深まりやすいことです。生活を共にしていくため、相手を知り、つらい時には支え合い、喜びは共有し合って、寮生活でしか得られない深い友情関係を築くことができます。相手のことを理解し、関わり方を考えながら生活することは将来の自分のためになる良い経験になりました。そんな富士吉田での寮生活の思い出は一生忘れません。



仲間と協力し合った寮祭

6月に開催された寮祭では、私はデジタル部門委員として携わらせていただきました。作業内容も多く、とても忙しい日々を過ごしましたが、一人ひとりの部門委員が責任を持って取り組むことで成功を収めることができました。あの時得た達成感は私にとってかけがえのない思い出です。また、バンドメンバーに誘われて、助っ人としてステージ発表に参加しました。前日のリハーサルでトラブルはあったものの、無事に終わらせることができました。メンバーと最後まで演奏しきった思い出の曲となりました。

1年間の富士吉田での寮生活の中で、寮祭では特に多くの方と関わり、とても充実した日々を過ごすことができました。改めて関わってくださった全ての方には感謝しかありません。ありがとうございました。



保健医療学部
リハビリテーション学科
作業療法専攻
長嶋 心音



学内会議報告

就任のお知らせ（12月10日、1月14日 理事会承認）

医学部薬理学講座（医科薬理学部門）担当 教授
〔勤務地：旗の台校舎医科薬理学〕



小口 達敬

医学部薬理学講座（医科薬理学部門）担当 准教授
〔勤務地：旗の台校舎医科薬理学〕
任命日：令和7年4月1日

医学部外科学講座（心臓血管外科学部門）担当 教授
昭和医科大学病院心臓血管外科診療科長
〔勤務地：昭和医科大学病院心臓血管外科〕



山口 裕己

医学部外科学講座（心臓血管外科学部門）担当 教授
昭和大学江東豊洲病院循環器センター心臓血管外科診療科長
〔勤務地：昭和大学江東豊洲病院循環器センター（心臓血管外科）〕
任命日：令和7年4月1日

医学部放射線医学講座（放射線科学部門）担当 教授
〔勤務地：昭和大学横浜市北部病院内科系診療センター（放射線科）〕



藤澤 英文

医学部放射線医学講座（放射線科学部門）担当 教授（員外）
〔勤務地：昭和大学横浜市北部病院内科系診療センター（放射線科）〕
任命日：令和6年12月10日

昭和大学藤が丘病院呼吸器センター長
〔勤務地：昭和大学藤が丘病院呼吸器センター（呼吸器内科）〕



横江 琢也

医学部内科学講座（呼吸器アレルギー内科学部門）担当 准教授
〔勤務地：昭和大学藤が丘病院呼吸器センター（呼吸器内科）〕
任命日：令和7年1月1日

医学部解剖学講座（顕微解剖学部門）担当 教授
〔勤務地：旗の台校舎顕微解剖学〕



川西 邦夫

医学部解剖学講座（顕微解剖学部門）担当 准教授
〔勤務地：旗の台校舎顕微解剖学〕
任命日：令和7年4月1日

教授
〔勤務地：昭和医科大学電子顕微鏡室〕



高木 孝士

准教授（昭和大学電子顕微鏡室）
任命日：令和7年4月1日

教授（員外）
〔勤務地：昭和大学細胞外マトリックス研究所〕



金山 朱里

准教授（昭和大学細胞外マトリックス研究所）
任命日：令和7年1月14日

学校法人昭和医科大学内部監査室長（再任）

下司 映一

特任教授
現：学校法人昭和大学内部監査室長
任期：令和7年4月1日～令和8年3月31日

特任教授 継続 令和7年4月1日～令和8年3月31日

富田 英 長谷川 真 鈴木 尚志

瀧本 雅文 米良 仁志 門倉 光隆 （12月10日、1月14日 理事会承認分）

理事会関係

◆昭和医科大学附属横浜看護専門学校設置について

保健医療学部が長津田校舎から鷺沼校舎に移設した後、看護専門学校を長津田校舎に設置することが承認された。

【設置計画】 開校日：令和9年4月1日

場 所：昭和医科大学長津田校舎

学生数：1学年80名、総学生数240名

◆「昭和大学医学部特別奨学金に関する規程」

「昭和大学歯学部特別奨学金に関する規程」

「昭和大学薬学部特別奨学金に関する規程」改正について

【改正趣旨】

- ・奨学金給付対象者の要件である「成績が優秀な者」を削除し、「優れた医療人を目指す資質のある者」に変更するため。
- ・特別奨学金の支給要件である従事期間（4年以上）について、育児休業、病気休職等、国内・海外留学期間は従事期間に含めないことを明確にするため。
- ・特別奨学生の欠員が生じた場合、定員が未充足の場合、6年次でも申込ができるように変更するため。
- ・本奨学金の奨学生の採用について、理事長が決定する運用を改め、学務担当理事協議会が決定することとするため。

【施行日】 令和7年1月1日

◆「昭和大学シンシアー奨学金に関する規程」改正について

【改正趣旨】

- ・奨学金給付対象者の要件である「成績が優秀な者」を削除し「優れた医療人を目指す資質のある者」に変更するため。
- ・奨学金に返還義務を設けたため。
- ・本奨学金の奨学生の採用について、理事長が決定する運用を改め、学務担当理事協議会が決定することとするため。

【施行日】 令和7年1月1日

◆令和6年度事業計画追加について

部門	追加事項	追加理由
法人	鷺沼キャンパスネットワーク設計の検討・準備 ※予算追加なし	令和7年度鷺沼キャンパスネットワーク設計を進めるための検討および準備を行う。
横浜市北部病院	病棟スタッフルーム改修工事 ※金額：80,000,000円	令和6年度勤務医の労働時間短縮に向けた体制整備事業費として、71,554,000円が交付決定されたことに伴い、各病棟のスタッフルーム（4階～8階：各2室）を改修する。

◆校地取得について

【対象物件①】

（土地） 地番：東京都品川区旗の台1丁目996番2・3・4・8
地積：804.77㎡（243.44坪）
地目：宅地 用途地域：第一種住居地域
建べい率：60% 容積率：160%

【対象物件②】

（土地） 地番：東京都品川区旗の台1丁目1024-96、97、98、99
地積：83.8㎡（25.35坪）
地目：宅地 用途地域：第一種住居地域
建べい率：60% 容積率：300%
（建物） 延床面積：87.48㎡（26.46坪）
構造：木造亜鉛メッキ鋼板瓦葺2階建

◆藤が丘病院再整備準備室、鷺沼キャンパス準備室および横浜看護専門学校準備室設置について

藤が丘病院再整備準備室

【設置趣旨】 藤が丘病院再整備準備委員会の下部組織としての位置づけを改め、法人組織として設置する。

【設置時期】 令和6年12月10日

鷺沼キャンパス準備室、横浜看護専門学校準備室

【設置趣旨】 鷺沼キャンパス準備室、横浜看護専門学校準備室を法人組織として設置する。

【設置時期】 令和7年4月1日

◆事務局組織図変更について

【変更内容】 「鷺沼キャンパス準備室事務課」および「横浜看護専門学校準備室事務課」を設置する。

【変更日】 令和7年4月1日

◆事務局組織定員変更について

【変更内容】 「鷺沼キャンパス準備室事務課」および「横浜看護専門学校準備室事務課」の定員を配置する。

・鷺沼キャンパス準備室事務課3名

（課長1名・係長1名・係員1名）
・横浜看護専門学校準備室事務課3名
（課長1名・係長1名・係員1名）

【変更日】 令和7年4月1日

◆昭和医科大学病院国際健康推進センター設置

【設置趣旨】 医療ツーリズムの市場拡大への対応に向け、外国人患者の受け入れ体制を強化するため。

【名称】 昭和医科大学病院国際健康推進センター（Showa Medical University Hospital International Health Promotion Center）

【設置場所】 昭和医科大学病院

【センター長】 土屋 静馬 教授（員外）（国際交流センター）

【対象患者】 訪日外国人

【開設時期】 令和7年4月1日

◆令和7年度法人・大学・病院活性化推進委員会プロジェクトについて

本学は、理事会のもとに法人・大学活性化推進委員会および病院活性化推進委員会を平成19年から設置している。各委員会ではプロジェクトを立ち上げ、活発な議論を重ね、改革に向けた答申を作成する。令和7年度のプロジェクトは以下のとおりとすることが決定した。

法人・大学活性化推進委員会

- ①保健医療学部新学科・新専攻、横浜看護専門学校の入学志願者増加対策検討プロジェクト
- ②（1）1年次指導担任制度改革検討プロジェクト
（2）指導担任制度（1年次を除く）改革検討プロジェクト
- ③創立100周年記念 特別広報戦略検討プロジェクト

病院活性化推進委員会

- ①昭和大学病院の外来ブース有効活用・運用検討プロジェクト
- ②1次・2次救急・C9C病棟における助教（病院直属）・臨床研修医の配置検討プロジェクト
- ③一般病棟（戻りベッド）運用見直し検討プロジェクト

◆藤が丘病院再整備に関する工事着工等の時期の変更について

【変更理由】

- ①横浜市より、都市計画審議会および決定告示前に、先行して再整備に直結する病院整備工事（第一駐車場解体等）を行うことは地域住民から異議や意見があがる懸念があることから、告示後に正式に工事を行うように指示があったため。
- ②横浜市より、第一駐車場解体から先行整備広場工事期間中の一連の作業が過密であることから、周辺地域への安全などに配



慮した適正なスケジュールに見直すよう意見があったため。

【変更時期】

- ・病院Ⅰ期棟着工 2027年 4月 → 2028年 4月
- ・病院Ⅰ期棟竣工 2030年 7月 → 2031年 7月
- ・病院Ⅰ期棟開院 2030年11月 → 2031年11月
- ・病院Ⅱ期棟竣工 2034年 1月 → 2035年 1月

◆特許権に係る実施補償金支給について

以下のとおり発明者へ実施補償金を支給する。

【発明の名称】抗ウイルス活性を有するヌクレオチド誘導体の開発

【実施料収入金額】1,730,338円

【実施補償金（分配割合）】

大学（60%）：1,038,202円 発明者（40%）：692,136円



日本調剤

全国に広がる、日本調剤のネットワーク。

日本調剤株式会社（本社：東京都千代田区丸の内、東証プライム市場上場）は、
全国 47 都道府県で 700 以上の調剤薬局を展開している企業です。

— 生協は学園生活のパートナーです —



昭和大学生生活協同組合

旗の台：3788-2322（内線）8268 アミ：3785-9729（内線）8369
吉田：0555-23-8505 洗足：3787-4432 横浜：045-985-9624



昭和大学の皆さまへ
便利なサービス・商品を提供します！

昭和大学富士吉田の天然水

イベント業務委託

昭和大学オリジナルワイン

ローソン&タリーズ

QUOカード・VJAギフトカードなど その他色々！

お気軽にお問い合わせください！ ☎ 3784-8280

i Information

詳細・更新情報は各部署へお問い合わせください。

リカレントカレッジ事務局

令和7年度 昭和医科大学リカレントカレッジ 春期プログラム受講生募集中

リカレントカレッジでは、令和7年度春期プログラム受講生を募集しています。定番の講座から新規開講講座まで多彩なプログラムを取り揃えております。今回は5月以降に開講する講座をご紹介します。資料請求・講座申込はリカレントカレッジホームページをご覧ください。

申込締切：4月20日(日)

プログラム名（5月開講）	講師（敬称略）
我が国の医療と健康 その2 ～医師国家試験問題から紐解く～	小風 暁
繋がっている宇宙と社会といのち ～人はなぜ宇宙を見上げるのか？～	縣 秀彦
心も身体もリラックス 癒しのケアとその効果 ～触れるケアを中心に～	田中 晶子
この事件を裁くのはあなたです	城 祐一郎
アニメが繋ぐ世界 ～アニメ聖地巡礼とファンの楽しみ方～	刑部 慶太郎
東京の庭園の魅力 ～歴史と美を愉しむ～	鈴木 誠
アクティブラーニングで学ぶ医療現場のDX	中村 明央

申込締切：5月20日(火)

プログラム名（6月開講）	講師（敬称略）
海を越えた犯罪者たち ～国際犯罪の実態に迫る～	城 祐一郎
生活習慣を見直して健康寿命を延ばそう！	小風 暁

申込締切：6月20日(金)

プログラム名（7月開講）	講師（敬称略）
楽しく高める自然治癒力 ～セルフケアで免疫力アップ～	佐々木 晶子
レジリエンス ～折れない心のつくりかた～	後藤 理英子

申込締切：8月20日(水)

プログラム名（9月開講）	講師（敬称略）
最期まで自分らしく生きる ～緩和ケアいのちの現場から～	西木戸 修

※定員に達し次第、受付を終了いたします。

リカレントカレッジでは講師を募集しています。同窓生も講師として活躍中です。

お問い合わせ 昭和医科大学リカレントカレッジ事務局

電話：03-3784-8143

メール：recurrent@ofc.showa-u.ac.jp



上條記念ミュージアム

メディカルデザイン展 開催中！

第6回企画展「メディカルデザイン展 ―昭和大学メディカルデザイン研究所の試み―」が、昭和医科大学メディカルデザイン研究所(IMD: Institute of Medical Design)主催、上條記念ミュージアム共催で開催されています。IMD主催の「医療を支えるデザイン」をテーマとしたプログラムに参加した多摩美術大学プロダクトデザイン専攻の学生作品を中心に、今年度設立されたIMDの医療現場のQOL（Quality of Life）を高めるための試みを展示しています。

【開館】

火曜日・金曜日

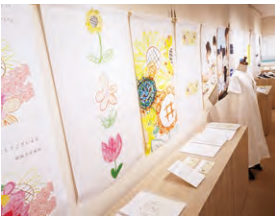
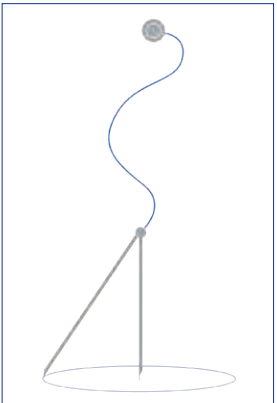
13:00～15:00（予約制）

【開催期間】

2024年11月19日(火)～

2025年6月27日(金)

皆さまのご来館を心よりお待ちしております。



「いつも探しています」大学や病院の歴史資料

皆さまのご自宅や勤務先に、昭和医科大学の歴史に関する資料はございませんか。

資料は「上條記念ミュージアム」にて大切に保管・展示をさせていただきます。

これらの品々は「至誠一貫」の精神で歩んできた95余年に及ぶ昭和医科大学の歴史を後世に伝える貴重な資料となる可能性があります。皆さまからのご連絡をお待ちしております。

また、本年秋季に企画展「昭和医専から昭和医大へのステップと時代背景」（仮）を開催する予定です。

昭和医科大学時代（昭和21～39年）にスポットをあて、設立経緯や校舎の移り



変わりなどが紹介できるよう準備中です。当時の資料（卒業アルバム、ノート、写真など）をお持ちであれば併せてご一報くださいますようお願いいたします。

お問い合わせ 昭和医科大学上條記念ミュージアム

電話：03-3784-8031

メール：museum@ofc.showa-u.ac.jp



総務部

昭和大学サポート寄付制度にご協力いただいた方

【創立100周年に向けてへの寄付】

同窓／田崎 博之 様（医学部・33回生）、大木 紘 様（医学部・35回生）、水川 啓子 様（医学部・46回生）、森 芳郎 様（医学部・51回生）、医療法人昭友会 埼玉森林病院 院長 磯野 浩 様（医学部・61回生）

職員（50音順）／小川 良雄 様、小出 良平 様、中井 雄一 様、中西 孝子 様、彦山 弘子 様、尾頭 希代子 様、藤元 流八郎 様、宮崎 拓郎 様

一般／株式会社かわでん 様、株式会社長南 様、戸田建設株式会社 様、佐藤 定雄 様、三森 晋一 様

【武重優秀クラブ賞基金への寄付】

同窓／新井 大輔 様（医学部・69回生）

【教育研究協力資金への寄付】

同窓／田崎 博之 様（医学部・33回生）

【昭和大学歯科病院への寄付】

同窓／小出 薫 様（薬学部・3回生）

【各クラブ・学生会への寄付】

同窓／佐藤 雅道 様（医学部・67回生）、井関 雅一 様（医学部・56回生）

※収納期間：2024年12月1日～2025年1月31日

※本学広報媒体への掲載に同意していただけた方のみといたします

本誌名称および月号表記の変更について

日頃より本誌をご愛読いただき誠にありがとうございます。2025年4月1日に昭和大学は「昭和医科大学」へ校名を変更いたしました。これに併せて、本誌は「SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS」と名称を変更いたしました。また、月号表記については、これまで2-3月号のように記載していましたが、皆様のお手元に届く時期を記載することに改め、今号は4月号といたしました。次号以降は6、8、10、12、2月号となります。今後も変わらずのご支援・ご愛読のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

創立100周年記念事業募金 ご支援のお願い

本学は令和10年（2028年）に創立100周年を迎えます。この大きな節目を迎えるにあたり、教育・研究・診療体制の充実や更なる発展のため、創立100周年記念事業を策定いたしました。

経済情勢の厳しい折ではありますが、本学における重要な役割を担う記念事業の実現へ向け、新時代への道のりを皆様と共に歩みたいと切に願っております。

皆様には本学の取組みに対して、ご理解・ご賛同いただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

お問い合わせ 総務部企画課 企画サポート係

メール：kikaku@ofc.showa-u.ac.jp

電話：03-3784-8387

FAX：03-3784-8012



今号の表紙写真

表紙写真は、校名変更に関する懸垂幕を設置した旗の台キャンパス4号館。

2025年4月1日、本学は「昭和医科大学」に校名を変更しました。

医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部を擁する医系総合大学であることを校名からも発信し、社会に貢献できる優れた医療人を育成する大学として更なる発展を目指します。

そして、2028年創立100周年に向け躍進を続けていきます。



SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS

昭和医科大学新聞 通巻第624号

April 2025 令和7年4月1日発行

vol. 15

[年6回発行]



学校法人 昭和医科大学

(03) 3784-8000

〒142-8555

東京都品川区旗の台1-5-8

【本誌について】

発行人 小口 勝司

編集 総務課 大学広報係

(03) 3784-8059
press@ofc.showa-u.ac.jp

ご意見やご感想、各種情報をお待ちしています。

制作・印刷 株式会社ダイヤモンド・グラフィック社

【各種募金・寄付について】

企画課 (03) 3784-8387

【学事について】

学務課 (03) 3784-8022 (旗の台)
(0555) 22-4403 (富士吉田)

(045) 985-6503 (横浜)

大学院課 (03) 3784-8793

入学支援課 (03) 3784-8026

！個人情報の取扱いにご注意ください

昭和医科大学新聞には、学生・職員および学外関係者の氏名や所属等を掲載している場合があります。掲載に際しては、学校法人昭和医科大学が個人情報を広報活動に利用することについて説明し、同意していただいております。原則として、その他の目的に個人情報を利用することはできませんので、取扱いにはご注意ください。